



第46号 2024.5.20 発行  
 発行者：株式会社コロラボ  
 編集者：JO 編集委員会

# 「教えない音楽教室」が教える 自ら考えて行動する力

Smile Music 主宰

広瀬 治代 さん



上野学園大学器楽学科ピアノ専攻卒。皇居内桃華学堂にて、上皇后美智子様主  
 宰5音大卒生の演奏会にフルート伴奏で出演。大手音楽教室と自宅ピアノ講師  
 として30年延べ生徒数450名。コロナ禍に音楽教室存続の危機と従来の音楽  
 教育に疑問を抱き、改めて独自の教室を開く事を決意。まちなかbizあおば  
 に入会し、協同起業塾にて起業のための事業計画書づくりを学ぶ。2023年  
 のOICHIビジネスアワードにて「教えない音楽教室」でグランプリ受賞。  
 AIの進化や予測不能な時代になっても、自ら考えて行動する力を音楽を通し  
 て身に付けるための教室を展開中。

江森：広瀬さんは「教えないピアノ教室」という、とてもユニークなコンセプトのピアノ教室を運営されていますが、これを始めたきっかけは何だったのですか。

広瀬：「教えない」という言葉は実は十年ぐらい前からずっと思っていたのですが、ヤマハにいたというところもあって具体的にレッスンで実践するというのができなかったんです。ヤマハのビジネスとしては、生徒を集めるためにスターを育てることが必要で、そのための英才教育をするのが当たり前前の目的になっているんですね。

江森：学習塾でいうところの○○高校何名合格！みたいなやつですね（笑）

広瀬：そうそう。特に私はコンクールに出るような子のクラスを担当していたので、ずっとモヤモヤしたものを抱えていたのですが、その違和感が決定的になったのがコ

ロナのときだったんです。

いつもそばで見ている子が、オンラインになった途端にレッスンについて来られなくなってしまうのがつらかったですよ。自発的に練習するというのができないんですね。やらされてたんですよ、結局。私は音楽の楽しさとか、自発的に弾くということを教えていたつもりでしたし、伝わっていると思っていたのが、全然伝わってなかったということが本当にショックで、こんなに高いところを目指している子でさえそうなんだということを目の当たりにして、これではいけない！と思ったのが始めたきっかけです。

江森：私もときどきフェイスブックでレッスンの様子を拝見していますが、具体的にはどんなレッスンをしているのか紹介してください。

広瀬：まず初めに教えるのではなくて、質問するんですね。「なんで音符って丸いのかな？」とか。4歳、5歳ぐらいの子ですけど。そうすると「石みたいだから」とか、子供なりに考えて何か言ってくれますよ。それを否定せずに受け止めて、そしてまた質問して、答えてというのを繰り返していると、小さい子でも元々その子が持っている考える力が出てくるんです。ここは大きい音で弾いてみようとか、ここはゆっくりとか、子供なりに自分で考えて演奏するようになるんですね。そうやっていくうちに、「あそこはそういう場だ」ということを理解してくれるようで、子供の心構えが変わってきます。例えばベートーベンの曲を練習するじゃないですか。そうするとベートーベンでどんな人なんだろうとか、この曲はどんな気持ちで作ったんだろうという疑問

が湧いて、小学1年生の男の子なんですけど、次のときまでに自分で勝手に調べてくるんですよ。それで、これはベートーベンが目が見えなくなる前の曲だから明るく弾こうとか、自発的に考えるようになるんですよ。

大事なことは、演奏のテクニックを云々する前の段階。音楽との向き合い方や、自分で前に進んでいく力であって、それは音楽じゃなくても、どんなことにも共通することだと思っています。

江森：すごいですね、もはや音楽教室を超越してますよね。私は広瀬さんの「教えないピアノ教室」は人間教育として何かすごく大事なことをやっている気がして、注目しているんです。

広瀬：音楽は単なるツールなんですよ。音楽を入口にして好奇心とか想像力とかそ

ういうものを育てていくことなんだと思うんです。よくピアノなんて経験のある人しかできないんじゃないかとか、すごく敷居の高いものと思ってる人がいるんですけど、そんなこと全然なくて、かえって本当に何も知らないゼロからのスタートの子の方が、アーティストになるんじゃないかって、本当にそう思います。

江森…先入観がないのがむしろいいかもしれませんね。音楽の入口という意味ではリズムのワークショップなんかもやってみますよ。

広瀬…これもなかなか準備も大変で、あの人がやってくる人なんだろう？と思われたりもするんですけど(笑)、これも音楽なんだよということ伝えて続けています。毎回大盛況なので、参加者全員を覚えきれないので、あるとき障害を持った男の子が来ていたみたいで、私全然気づかなかつたんですけど、みんなと一緒にやれたことがすごく嬉しくて、子供も自信を持ったみたいだからピアノのレッスンをやりたいってお母さんから連絡をもらったんですよ。それは私にとってもすごく嬉しいことで、そういう子が来てくれるんだらもつとがんばらなきゃ！って思ってます。

江森…障害のあるなしに関わらず参加できるユニバーサルな教育プログラムって、ありそうでないですよ。そういう意味ではハンディキャップを抱えている親子にはとてもありがたいプログラムだと思いますし、広瀬さんの教室の価値を、まっ先に理解してくれる人たちなのかもしれません。

広瀬さんは、不肖私が塾長を務めているNPO法人OICHI主催の「協同起業塾」

の第11期の塾生でした。事業計画づくりでは苦労しましたね(笑)。

広瀬…ヤマハのやり方に疑問を感じていたこともあって\*まちbizに入会してみたものの、あまり活動できずにいたんです。あるとき代表の坂佐井さんとお話をする機会があつて、私が音楽教育について感じていたことをワラッと打ち明けたんです。そうしたらそんなに真剣に考えているんだつたら協同起業塾に入って勉強してみれば？と言われて、思い切つて入ったのですが、やっぱり私にはすごく難しくて…。

江森…でも、事業計画発表会のビジネスアワードでは見事グランプリを獲つたじゃないですか。

広瀬…あのときは起業塾のプログラムが終わってからアワードまで半年ぐらい時間があつたじゃないですか。あの時間が良かったと思います。結局最後まで事業計画も決めきれずに終わってしまったのですが、ここまでやつたんだからしっかり作らなきゃと思つて、もう一度練り直す時間がとれたし、何より同期の仲間の存在は大きかったですね。私なんかパワーポイントって何でしたっけ？というところからのスタートでしたから(笑)、同期の3人には本当にお世話になりました。それでもまさか私がグランプリとは自分でも驚きました。意外と追い込まれると強いタイプなのかなと(笑)。

江森…あれから10カ月ほどが経ちましたが、起業してみてもいいですか。  
広瀬…こういうことをやっていきたいというのは明確になりましたが、実際にどうやっていくかというのは今でも手探りです。場所も課題ですね。どうしてもピアノが必要

なのですが、公共の場所は営利目的だと借りられないし、固定の教室を持つのはコスト的に難しい。学校の音楽室なんて放課後使つてないんだから使えないのかしらと思つてもあります。

江森…学校はきつとうるさい決まりがいろいろあつて使えないんでしょうね。そういうところも行政の課題ですね。伝えるというところでいえば、フェイスブックにあげる動画はすごくいいですね。

広瀬…アワードのプレゼンにも短い動画を入れたのですが、確かにあれは共感してくれた人が多かったです。

江森…「教えない」って、ああそういうことか、そうだよ、こういうことだよ、ねというものが、すごく納得できます。何もみんなが子供をプロのピアニストにしようと思つているわけじゃないし、なんでピアノを習わせるのかということの意味がストンと腹落ちする感じがします。

広瀬…そうなんです。私も子供の頃間違えないで弾くと褒められるので、間違えないことだけを目指して練習していましたが、本当はそういうことではなくて、発表会に向けてがんばるプロセスとか、学校に行けなかつた子が行けるようになったとか、そういうことを応援したいんです。

江森…そういうタイプの先生のネットワークなんかができると思いますね。

広瀬…それも考えますね。音大の学生なんてそれこそみんながプロの演奏家になれるわけじゃないし、そうかといって就職もないんですよ。そもそも就職活動しないし。でもあれだけのお金をかけて、すごい技術を身につけたのに、本当にもつたないと思

うんですよ。だから音大でも、音楽を通じて生きる力を教えられる先生を育ててほしいですね。忍耐力はあるんですよ。あれだけのことを突き詰めてやってきた人たちなので。

江森…なるほどね(笑)。音大生の新しい活躍の場ができると思いますね。

音楽に限定しないアートの力なのかな。そこに楽器屋のヤマハには絶対できない教室の力たちがあるように思います。美術館とか劇場とかアートのスペースとのコラボも新しいことが生まれる可能性がありそうですね。象の鼻テラスなんてとてもいい。

広瀬…市役所のアトリウムも気になってます。

江森…それもいいですね。広瀬さんのメソッドは子供以外にも応用の可能性はありますか。

広瀬…シニアですね。これは事業計画書にも書きましたけど、最近言われているフレイル予防に音楽がとてもいいんです。グループでプレッスンで、リズムでも歌を歌うでもいいんですけど、まず家から外に出る理由ができます。そこでみんなで音楽をすることで見聞するんですよ、いろんなことが。そこは子供と一緒になんです。脳の活性化にもいいし、認知症予防にもなります。今は少しだけしかできていないのですが、今後もっと増やしていきたいですね。

#### まちなかbizあおば(まちbiz)

横浜市北部を拠点に活動する起業支援のコミュニティ。バーチャルオフィスやセミナーなどのサービスを提供し、600名ほどの会員が共同プロジェクトなど様々なスタイルでビジネス交流しています。 <https://machibiz.com/>

# 障害者への「合理的配慮」 4月から民間企業も義務化

令和3年に改正された障害者差別解消法が3年の周知期間を経て、今年4月に施行されました。これまで行政機関等でのみ義務とされていた障害者への「合理的配慮」が民間企業でも義務化されました。

障害者差別解消法は、障害者への不当な差別的取扱いの禁止や、合理的配慮の提供、事前的改善措置（環境整備）などを定めた法律で、平成28年に施行されました。当初、合理的配慮については行政機関等に義務付けられており、民間企業では努力義務とされていました。この度の法改正で民間企業でも合理的配慮が義務化されました。

日常生活において広く提供されている設備やサービスの中には、障害のない人には簡単に利用できても、障害のある人にとっては利用が難しく、障害のある人の活動が制限されてしまい、意図せずに「差別的な」結果になってしまふ場合があります。このような場合には、障害のある人にとって制限となっているバリアを取り除く必要があります。このことを「合理的配慮」と言っています。具体的には、

- ① 行政機関や企業が
- ② その事務や事業を行うに当たり

- ③ 個々の場面で、障害者から「社会的なバリアを取り除いてほしい」旨の意思の表明があった場合に
- ④ その実施に伴う負担が過重でない範囲で
- ⑤ 社会的なバリアを取り除くために必要だと配慮すること

つまり、行政や企業が一方的に障害者に配慮しなければならぬのではなく、当事者の障害の程度や種類、対象となつてい施設や商品・サービスの種類、そのときの状況などによって、どこまでが合理的で、どこまでが過重な負担なのかについて、お

互いに「折り合えるポイント」を探して、その都度解決していく姿勢が、双方に求められているというようになります。従って、政府の広報等でも「建設的対話」の重要性が指摘されています。

当社の専門分野である情報アクセスについても、障害者にとつてのバリアはたくさんあり、ホームページにアクセスできないなど、予想される不都合については、事前に改善することも法律で求められています。メディア・ユニバーサルデザイン（MUD）など具体的な解決のための知見が必要となる分野でもありますので、合理的配慮の対応でご不明な点などがありましたら、お気軽にご相談ください。

## 個人的な話

### 高濃度人工炭酸泉レビュー 真島愛子

今回は自称お風呂愛好家の真島が、近隣の高濃度人工炭酸泉のレビューをしようと思います。(2024.3 現在)

会社帰りに立ち寄れるところから、まあまあ遠いところまで、比較するのは4施設。さあ、いってみよう～！

まずは少し炭酸泉の説明を。炭酸泉とは文字通りお湯の中に炭酸ガスが溶け込んでいるお風呂のことで、弱酸性でお肌を引き締める効果や、血流が良くなって新陳代謝が活発になることによる老化防止効果などが期待されています。世界の炭酸泉王国と呼ばれるドイツでは「心臓の湯」と呼ばれ、病気の治療にも使われるなど医学的にも注目されています。

日本でも「日本の炭酸泉」と評される大分県の長湯温泉をはじめ、天然の炭酸温泉が数多く湧出しています。人工炭酸泉とは、専用の装置を使って人工的に炭酸泉を作るもので、銭湯などの温浴施設に導入されています。



施設名	炭酸の量	湯温	浴槽広さ	温まり度	満足度	平日料金
鷲の湯 (神奈川区)	◎	熱め	○と×	◎	◎	530円
ヨコヤマユールランド 鶴見 (鶴見区)	×	ぬるい (露天)	△	×	×	1300円 タオル付
満天の湯 (保土ヶ谷区)	○	ぬるい	○	○	○	950円
竜泉寺の湯 (旭区)	○	ほどよい	◎	◎	◎	880円

今回訪れたのは上の4施設。あくまで炭酸泉の比較ですのでご注意ください。会社近くの「鷲の湯」は街の銭湯のわりにはお風呂の種類が充実、しかも銭湯ならではの高温でのお風呂もあつあつです。炭酸泉は最も低温度ですが、他の温浴施設と比べるとやはり高温です。浴槽の広さが○と×なのは、日替わりで男女が入れ替わる広めの森林乃湯と、狭めの野天乃湯があるためです。

続いて国道沿いで車のアクセスが良いヨコヤマユールランド鶴見。露天だからなのか露天にもかかわらずなのか、ぬるい上にほとんど炭酸を感じることができず、残念ながらいまひとつでした。

そして相鉄線上星川駅前の満天の湯。お風呂甲子園優勝の実力通りホスピタリティは抜群ですが、炭酸の量がイイ感じの時とほとんど感じない時の差が大きく、ケチってる？という疑惑が拭えませんが、総合的には気に入っています。

最後はご存知の方も多いでしょう、相鉄線鶴ヶ峰駅から送迎バスが出ている竜泉寺の湯。お医者さまの炭酸泉に関する説明書きが浴槽の真上にどど～んと大きく掲げられていて説得力があります。炭酸濃度の安定感もあり、ゆったりのおんびり炭酸泉に入りたい方には、ここがオススメです。

いかがでしたでしょうか。ぜひみなさんも炭酸泉比べで楽しく健康になりましょう♪

## インターン生がScope3の排出量削減企画に挑戦

今年2月、春期インターンシップとして横浜市立大学から2名の研修生を受け入れました。今回この2名には、当社のScope3排出量のうち、サプライヤー側での排出量算定・削減に向けた施策を企画・立案するという課題に挑戦してもらいました。

Yさんは、財務的なメリットにより企業の取り組みを促進するアイデア。中でもCO<sub>2</sub>削減を達成することで発注元の当社からインセンティブを受け取れるというユニークな仕組みを提案してくれました。

Tさんは、地域住民や就活生を巻き込んだイベントを開催し、ステークホルダーの顔が見える状態で環境課題について学ぶことで、意識改革を促すというアイデアを考えてくれました。

短い時間の中で学生ならではの視点を取り入れた意欲的なプランを企画してくれた両名に敬意を表し、今後のScope3排出量削減策として検討していきたいと思えます。

### 手順 (ココラボ)

- インセンティブ支払い料の調達
  - 環境配慮型商品の一部に料金を転嫁する。
  - 商品の加工の際も、報告をしてくれる企業にのみ委託する。
- 報告を受けた際に、インセンティブを支払う
  - 基礎インセンティブ
  - CO2排出量報告に参画する企業が増える場合、削減量に応じたインセンティブの付与も検討

#### メリット

- サプライチェーンのCO2排出量の把握
- CO2排出に関する取り組みをする企業との関係強化

### 企画提案①地域住民を巻き込んだ環境セミナーやイベントの開催

#### ・課題解決のための仕組み

- ✓ 開催しき
  - 小中学校やシニアの方々など地域住民と一緒に楽しく学ぶイベント
- ✓ 企業にとっての価値
  - 社会貢献、大学生への企業アピール
- ✓ 消費者との差別化
  - 社内全体清掃、人間ドック、目の休養週間など社外滞在時
- ✓ 休日
  - 社員は家族同伴で来場できる
- ✓ イベント後
  - イベント退場時に次回参加時までの報告の配布



## いつもお掃除ありがとう

## 地域作業所の利用者さんに感謝状贈呈

当社では週に1回、NPO法人あすなろ会が運営する「地域活動支援センター」むすび」さんに社内清掃をお願いしています。この度2月のありがとうの日にあたり、いつも一生懸命清掃してくれる5名の利用者さんと、施設長の田上さんお一人お一人に感謝状を贈呈しました。



今回は感謝状に加え、ChatGPTに考えてもらった風変わりな11の質問からなるQ&A形式の従業員紹介ブックも一緒にプレゼント。贈呈式は、「一人一人にもらえるの!」「「ちゃんとした賞状だ!」などの声が上がリ賑やかな雰囲気。後日むすびさんからは「皆さん感激されていました。これを機にもっと頑張ろうという方や、見ていてくれる人がいるってありがたいという方。それぞれ良い刺激となったようです。」と感想もいただきました。これからも感謝の気持ちを持つことと、それを伝えることを大事にしていきたいと思えます。

## 東高校プレミアムプログラムでサステナビリティの授業を実施

昨年12月8日に、横浜市立東高校プレミアムプログラムに参加し、高校生にサステナビリティをテーマにした授業を実施しました。

東高校はユネスコスクール加盟校として、ESD（持続可能な開発のための教育）を推進しており、その一環として今回のプログラムが実施されました。参加団体は29団体に上り、

30分×2回の授業で、学生がそれぞれ興味のある企業の授業に参加しました。

高校生に「サステナビリティとは」をわかりやすく伝えるのには苦戦しましたが、参加された学生からは、「サスティナビリティに取り組むには、企業と社会や、企業同士での協力が重要だと感じました」「多くの会社がSDGsについて取り組み理由を初めて知りました」といった感想をいただきました。少しでも貢献できたことをうれしく思います。

## 『展示制作事例@横浜トリエンナーレ』 『絹の夢ーsilk threaded memories』

横浜高速鉄道みなとみらい線の馬車道駅に、突如現れた大きなパネル群。立ち並ぶ壁の中は、ここが駅であることを忘れてしまうほどの異空間。この度横浜トリエンナーレのアープログラムのひとつである写真家 石内都さんの展示制作を担当させていただきました。高さ3メートルもあるパネルは、全て一枚もの高精細出力し、木枠に固定した後写真のように組み立てています。

トリエンナーレ開催中の横浜は、街を散歩するだけでもアートに触れることができる特別期間。6月9日まで開催していますので、初夏の海風とアートを感じに、ぜひ横浜へお出かけください。



J〇 (ジエイ・オー) 2024年5月号 (第46号)

発行者：株式会社ココラボ

横浜市神奈川区大口仲町108番地

TEL: 045 (431) 6611

FAX: 050 (3730) 6273

URL: <https://www.cocollabo.jp>

